

講座名	北総部会・ステップアップ講座「下手賀沼周辺でみられる特定外来生物」		
開催日時	2021年11月13日(土) 10時~13時30分		
開催場所	今井稻荷神社⇒水塚⇒金山落⇒下手賀沼⇒滝田家住宅	FIC 会員	10名



講師の山浦さん

今回の講師は山浦さん。山浦さんは今年1月のオンライン・ステップアップ講座「SDGsから森林と環境教育を考える」で講師をして頂いた。当日は晴天でこの時期にしては暖かった。はじめにこの地域の特長について説明があった。手賀沼周辺は縄文海進で溺れ谷となっており、中世末期までは香取海につながる大きな入り江(手下浦)だった。その後、堰止湖が形成されたが、当初手賀沼と下手賀沼はつながっていて大きな「つ」の形をした湖だったが、江戸時代の利根川東遷事業と周辺の干拓事業で手賀沼と下手賀沼は分離された。この地域は過去何度も洪水が起きたため、避難用の「水塚」が現在でも残っている。1946年からの国営印旛手賀沼干拓建設事業によって現在では水域の8割が消滅し、周囲を取り巻くように広大な水田が広がっている。手賀沼側の利根川との接続地点には手賀沼排水機場が設置され、ここで水位が調整されている。手賀沼全体の流域面積は148.85km<sup>2</sup>で、大堀川や大津川、染井入落などの河川が手賀沼にそそぎ、手賀川を経て利根川に流れる。また下手賀沼へは金山落(落堀)がそそぎ、下手賀川を経て亀成川と合流し、手賀川を経て木下付近で利根川と流れ込む。出発して最初に立ち寄ったのは今井稻荷神社。巖島神社を思わせる両部鳥居と本殿の庇には疫病退治の木太刀が備えられており、青面金剛が彫られた庚申塔は市内で最も古いものである。



今井の水塚



ナガエツルノゲイトウ



コブハクチョウ



下手賀沼

次に今井の水塚に到着。水害時の避難用家屋で中には非常食

や生活用品が蓄えられている。金山落に沿って桜並木を歩く。普段は静かな金山落も桜の時期だけはたくさんの花見客で賑わうそうだ。

金山落の途中、トンビが輪を描くように飛んでいる様子うかがえた。下手賀沼に近づくと、白い花をつけた特定外来生物のナガエツルノゲイトウ(ヒユ科)が姿を現した。湖面にマットをひいたように広がっている。同じく特定外来生物のコブハクチョウの姿も見えた。コブハクチョウは白鳥と似ているが、留鳥で嘴の基部に黒色のこぶがあるのが特徴。水田への侵入を防ぐために上陸防止用のネットが張られていたがあまり効果はなさそうだ。その他、湖面にはオオバンやカルガモが群れをなして泳ぐ姿が見られた。収穫後の田を歩いて行くと最後の目的地、滝田家住宅に到着した。寄棟造、茅葺屋根の滝田家住宅は、国指定重要文化財で江戸時代に建てられてから300年以上も経っている。千葉県の国指定重要文化財の古民家で、現在も居住を続けているのはここだけという。そのご主人に会い、色々な話を聞かせて頂き、蔵と収蔵品の説明をしてくれた。滝田家住宅は白井市に位置する。白井市は「へ」字型をしていて面積は35km<sup>2</sup>。江戸時代は利根川から江戸に鮮魚を運ぶ輸送路「鮮魚道」の中継地として発展した。1つは松戸へ抜ける道で滝田家住宅はその荷受に関わっていたと考えられる。もう1つは木下から行徳へと抜ける鹿島道(現在の木下街道)で、その宿場町として白井宿が発展した。歴史と地形、生物など色々と楽しめた実地研修であった。



滝田家住宅にて

F I C 講師 山浦 敏之